

平成 28 年度 西さん成さん達の田作り ～第 10 期大椎っ子田んぼ、第 7 期あすみっ子田んぼ 先生方からの声

田植えから脱穀までの作業を終えて、学校田んぼの 1 年が終わりました。子どもたちだけでなく先生方からもご寄稿いただき、改めて、子どもたちと作業させていただくことの意義を教えてくださいたいような気がいたします。先生方、ご父兄の方々のご理解あって、無事に活動していくことができました。ありがとうございました。

◎大椎小学校

★「当たり前と思ってはだめ」 教頭 田中善範

YPP の皆さまを始め、多くの保護者・地域の方々のご協力で、今年も 5 年生は稲の学習を、実際に田んぼをお借りして「田植えから稲刈り、脱穀まで丸ごと体験」ができました。何か当たり前のように感じている児童もいるようですが、実はこうした体験ができるのは千葉市でも限られています。

小学校の教育課程では、理科で稲のつくり、社会で稲作を学びますが、学校の一角の 2 坪ほどの整地で稲を育て、それを観察という学校も多いのです。学校を取り巻く環境に大きく左右されるだけでなく、仮に「田んぼ」があっても学校の職員だけではどうにもなりません。私は子どもたちに言いました。「これが当たり前と思ってはだめだよ」と。「よくしてくれて当たり前、してくれなければ最高に腹が立つ。こんな気持ちを持ってしまうと鼻持ちならない人間になってしまう」私の尊敬する國分康孝先生（日本教育カウンセラー協会元会長）の言葉です。「よくしてくれて当たり前」では感謝の気持ちがおこりません。

学校によっては JA などとタイアップし、脱穀は機械で、という所もあります。それはそれで収穫量も多く、農家の方のありがたみも分かります。本校では本当に昔からの手法にのっとって行われており、稲刈りをした後、玄米にしていく体験を自分たちで行ない、お米が食べられるまでの過程が「リアルに」わかるようになっています。「千歯こき」「唐箕がけ」など大人でも実体験された方は少ないのではないのでしょうか。社会科の歴史学習に出てくる稲作の意味も実感できます。

貴重な体験だったと後になってわかるのは、実は大人でもよくあります。こうした「気づき」が人の成長の証し（あかし）なのでしょう。でも一番いいのは「貴重であると、今、実感できること」なのではないのでしょうか。私はいつも「時よ止まれ！お前は限りなく美しい！」とゲーテのファウスト博士が言ったような生き方ができればいいなと思ってしまいます。

★5年1組 北村真

およそ 1 年の間、子どもたちは大椎っ子田んぼで多くの体験を積むことができて、幸せだったと思います。

田んぼを見ることがあっても、田んぼの中に入る体験は普通の人にはないことでしょう。ところが、大椎小学校の子どもは田植えや草刈りなどお米を作る苦労や、暑さに耐えて行う作業の大変さも身をもって知ることができました。さらに、稲刈りや脱穀などの収穫の喜びと新米のおにぎりのおいしさを味わうことができて本当に良かったです。わたしも子どもと同じで、あのおにぎりを見て驚きました。お米一粒一粒のつやの輝きの素晴らしさ、そして一口食べた時のおいしさにはびっくりしました。今までの努力が報われた瞬間でした。

その他、周りの自然に恵まれていることにも気づかせていただきました。何気なく見ていた虫をじっくり観察してみたり捕まえてみたりして、生き物のおもしろさや不思議さに触れることができました。虫が嫌いだった子どもが興味をもつきっかけにもなりました。私自身も「えっ。」と思える虫に出会うことができ楽しかったです。そして、それぞれの結びつきは太陽を中心に命とつながっている自然の素晴らしさを感じ取ることができました。

この貴重な体験ができたのも YPP のスタッフの皆様とボランティアの保護者の方々のお陰です。本当にありがとうございました。そして、この活動が長く続くことを応援しています。

★5年2組 門脇美紀子

YPP の皆様にはこの 1 年間、本当にお世話になりました。子ども達とともに私自身も「大椎っ子田んぼ」の学習を通して様々なことを学ばせていただきました。稲作体験では、普段食べているお米がどのように育っているのか、田植えから脱穀までの作業に関わる中で学ぶことができました。田んぼに行くたびに成長する稲の様子や、1 本の苗が分けつをして株分かれすること、お米 1 粒からたくさんのお米ができることなど、驚きや、感動ばかりでした。特に米作りの大変さや喜びは、実際に体を動かして作業を行なうことで、実感しました。

脱穀・精米し終わったお米を塩などかけずお米本来の味を噛みしめながら食べました。頑張って作ったお米のおいしさは格別でした。うれしそうにおにぎりをほおばる子ども達の様子を見て、よかったなぁと思いました。



また、小山の谷津田という貴重な自然環境に触れることもできました。自然観察では、普段生活している中では出会えない様々な生き物に出会うことができました。子ども達も毎回楽しみながら学んでいました。田んぼがメダカや絶滅危惧種のニホンアカガエルなどのたくさんの生き物の大切な住処になっていること、そして、生き物たちも田んぼの環境に役立っていることなどを教えていただき、自然界にあるものすべてがみんなを支えあっていきていることに気づいていきました。もちろん人間が生きていくためにもこのような自然は大切に、人間と自然の共生の大切さなどについても学ぶことができました。

「大椎っ子たんぼ」の活動がなければ学ぶことができないことがたくさんありました。実際に自分の目で見て、体で感じて学ぶことの大切さを私自身も実感した1年でした。子ども達が学んだたくさんのことはきっと子ども達の心に残り、これからの学びや生活に生かしていかれると思っています。1年間、子ども達に様々なことを教えていただき、本当にありがとうございました。

◎あすみ小学校

★5年1組 上村知子

わたしの両親は、農業と養殖の仕事をしていました。生き物を相手にしているので、一日も休みはなく、日が昇り日が暮れるまで、田畑と養鶏場で働いていました。特に、米作りが始まると、水の管理や稲の見回りで、何度も田んぼに足を運ぶ姿を目の当たりにし、私にはできない仕事だと思いました。もちろん、私も、小さい頃から田畑の仕事や鶏の予防接種の手伝いはしていましたが、それらはあくまでも、一瞬だけ携わる「手伝い」であり「仕事」ではありませんでした。ですから、いつも YPP の方々がいらっしゃる「体験でなく仕事として・・・」という言葉は、私自身に言われているような感じがしました。

今回の「あすみ田んぼの一年」について学ばせていただくための下準備は、わたしたちには考えられないような苦労と時間を費やされたことでしょう。それらに答えるべく、自然の営み・生き物との関わりの尊さ、お米の大切さ等を伝え続けていきたいと思えます。

★「田んぼとの出会い」5年2組 若林由希

「これが田んぼというものなんだ。」米といえば秋田県！と言っても過言ではないほど、お米の産地として有名な県の出身である私ですが、今まで農作業というものを経験したことがありませんでした。お米は、親戚から毎月買っていましたし、小学校では、プランターでお米を育てただけでした。

そんな私にとって、あすみ田んぼでの経験は本当に素晴らしいものでした。田んぼの泥の感触や、稲が育っていく様子など、子どもたちと一緒に夢中で観察しました。谷津田に行く度に変化していく稲や、周りの生き物たちをこんなに間近で見ることができ、あすみ小の子どもたちはとても恵まれていると感じました。

このような経験ができたのも YPP の皆様、そして保護者の皆様のおかげだと思えます。ありがとうございました。

★5年3組 杉中健志

昨年度、六年生を担任し、江戸時代の生活を学習する中で、農業の発達について子どもたちに教える場面がありました。千歯こきや唐箕・千石どおしなどの農機具の発達により、江戸時代の初期と後期では、米の取れ高に約二倍近い差があることを知った子どもたちの驚いた様子を今でも覚えています。

今年度、五年生の担任として、あすみ田んぼの学習に関わらせて頂きました。特に稲刈り後、収穫したお米を古くから伝わる農機具を使って、食べられるお米に近づける活動は、昔の人々の知恵や工夫についても思いをめぐらせることにつながりました。スイッチひとつで多くのことができる現在の社会の中で、古くから伝わる機具を使って昔の人々の知恵や工夫を体感する場面は少なく、貴重な経験をすることができました。多くの方々のお力と支えがあってあすみ田んぼの学習を充実したものにすることができました。一年間、ありがとうございました。

★「変わるものと変わらないもの」5年4組 寺田知弘

私自身は7年目のあすみ田んぼです。今年もあすみが丘小学校の子どもたちがお世話になりました。毎年同じはずの田作りですが、その年によって少しずつやり方を変えたり、天候や周りの環境も違ったりして、毎回新しい発見や学びがあります。今年は初めてあすみ田んぼでモグラを見ました。稲の育ち方もやはり昨年までとは違うものがありました。

その一方で、YPP のみなさんが伝えてくださる子どもたちへのメッセージは、変わらず、ありがたいものです。人間が自然の中で他の生物といかに関わりがあっているかということや生命の尊さを、子どもたちは実感を通して学んでいます。これからもあすみが丘小学校5年生をよろしく願います。





里山たんけんレポート

第 204 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2017年1月8日(日) くもり

正月恒例、鳥の姿を求めながら谷津の現状把握を兼ねて谷津下流部鹿島川合流部までめぐりました。スタート地点の田んぼではいつものセグロセキレイ 2羽が採餌していました。谷津向かいでは小鳥が盛んに飛び交っています。シジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、シメとつぎつぎと現れ、双眼鏡やフィールドスコープでしっかり見るのが出来ました。小さい子どももスコープで見るのが出来たのが良かったです。アオジはたくさんいるのですがじっととまってくれないのでスコープでじっくり見てもうことは出来ません。谷津合流部の鹿島川にはクサシギが4羽いましたが人影を見てすぐ飛び立ってしまいました。猛禽の姿も見られましたが種までは判りませんでした。鳥は16種を確認しました。

谷津は荒廃が目立ち、昨年通れた下流部への道もアズマネザサが繁茂し道がどこかも判らない状態で前日に刈払機2台で刈って道を空けたほどでした。アズマネザサは数カ所で谷津内に繁茂し、ますます谷津の湿地の自然や景観に影響を及ぼしてきていました。

(参加 大人11名、小学生3名、幼児2名；報告：網代春男)

第 201 回 下大和田 YPP「どんと焼きと昔あそび」

2017年1月14日(土) 晴れ

新年最初の YPP のイベントは恒例のどんと焼きです。田んぼからかかしを運んで広場の真ん中にやぐらのように組みました。正月飾りなどお焚き上げるものも一緒にして、次の点火はいつものように火起こしです。前日に降った雨でちょっと湿気が多め。火きり棒の下の方にはずみ車が付いた“まいぎり”を使っていくつかのグループに分かれて挑戦しますが、煙が上がって何とか火種ができて



もなかなか炎になりません。頭がクラクラするくらい息を吹きかけ

ても火種がなくなった時は大きなため息が上がります。これまで火起こしで点火できなかったことはないのですが、もしかしたら今回はダメかもしれない…とちょっと心配の雰囲気があったところ、一つのグループの手元から炎と大きな歓声が上がりました。しばし炎を眺め、暖まったところで、みんなで竹の楽器でリズムを取りながら歌をうたったり、弓矢や水路でのボートレースをしたり、コマ回しや剣玉で遊んだり、冬の谷津で楽しく過ごしました。

無事火起こしが成功して、今年も良い一年となりそうですね。

(参加 大人41名、小学生22名、幼児11名、報告 高山邦明、写真 田中正彦)



第 136 回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

2017年1月21日(土) 晴れ

年末の YPP に続いて、今回もあぜの補修をしました。いつも水漏れがひどいあぜを前回一度全部壊して原因となっていた穴を埋めました。補強するためにそこに山砂をかぶせる作業をしました。斜面林から崩れ落ちて田んぼの脇の舗装道路の端を埋めていた山砂を掘り起こして、一輪車で運びます。崩れたところに竹などがはびこっているの、まず根を切って植物を取り除かないといけません。スコップを使ったり、一輪車で重い土を運んだり、普段やり慣れていない作業はちょっと大変でしたが、気温が低い冬場には体が暖まるいい運動でした。山砂で覆ったあぜを上から踏みつけて固め、最後に田んぼの泥を塗る“くろ塗り”をして完成。乾くまでしばらく水をいれないようにしておきました。

果たしてこれでうまく水漏れしにくくなるのか、今年一年様子を見ないとわかりませんが、これまでよりは良くなったことを期待したいものです。

(参加 大人5名、報告 高山邦明)



最後のくろ塗り作業→

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 1月 1日 斜面林からアカゲラやルリビタキの声が出た。(高山)。
1月 15日 田んぼにセグロセキレイのカップルとハクセキレイが1羽。別の場所にはキセキレイの姿(高山)。
1月 21日 田んぼの隣の休耕田にオスのアカガエルの姿。あぜを補修しているとお腹の大きなシュレーゲルアオガエルが出てきた。ホオジロがさえずっていた(高山)。
1月 28日 アシ原でたくさんのエナガとシジュウカラが餌を探していた(高山)。

下大和田

- 1月 31日 ニホンアカガエルの卵塊 34 個を確認。29 日の晩に産卵した模様(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第 202 回「アカガエルの産卵調査と谷津の手入れ」

真冬に産卵するニホンアカガエルの卵塊の数を調べます。今季はどれくらいあるか楽しみです。田んぼや林の手入れもします。

- 日時: 2017年2月18日(土) 9時45分~14時 ☆小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)
集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円)
持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。
参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料
主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第 206 回 下大和田 3 月の谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルの産卵は順調に進んでいるでしょうか。YPP の観察会以降の産卵をカウントをしながら谷津を巡ります。

- 日時: 2017年3月5日(日) 9時45分~12時 ☆小雨決行
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)
集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田 YPP に同じ)
持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

- 日時: 2017年2月12日(日)、2月17日(金) いずれも9時45分~14時
場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物
主催: ちば環境情報センター

▼第 137 回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

今回も田んぼのあぜの手入れをします。今年の米づくりに備えてひと汗かきましょう。

- 日時: 2017年2月11日(土) 10:00~12:30、小雨決行
場所: 千葉市緑区小山町の谷津(ご連絡いただければ地図をお送りします)
持ち物: 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。
参加費: 100円(小学生以上、資料代など)
主催: ちば環境情報センター

編集後記 昨年は暖冬の年明けでしたが、今年は冬らしい寒さになっています。谷津の早朝の気温は時に氷点下5度近くに下がり、あぜには大きな霜柱ができ、日陰の田んぼは日中でも氷が張ったままです。小山であぜの補修をしていたら、そんな田んぼの土の中からお腹の大きなシュレーゲルアオガエルが出てきました。真冬に産卵するニホンアカガエルも田んぼで冬眠しています。凍てついた谷津田でたくさんの命がじっと春の訪れを待っています。(高山 邦明)